

河  
蝦  
考  
  
下

二 15  
2366  
2上





門二 15  
號 2366  
卷 2



河蝦考和歌

秋あはれや行かふるもよみかへはるる月よききり生  
秋のあはれはるるもよみかへはるる月よききり生  
あはれはるるもよみかへはるる月よききり生  
水むせし細谷川の思ふぬよかり川鳴あり秋のほふくま  
ゆりまふ秋のあはれをさるるぬいさし小川よるる時あり  
秋風よききりあはれをさるるぬいさし小川よるる時あり  
山脈のたのろるぬきぬき井さのかりけききりや鳴らん  
かきけり井さのぬきぬきあはれをのまふあはれ秋のききり  
けききりききりききりききりききりききりききりききり

源朝臣直春

真春朝臣  
藤原總子

源朝臣宗悟

源益志

田丸直純

田丸直陽

伴直方

西田忠禮

朝倉尊定

○河蝦考和歌

〇一

早稲田大学  
25.6.16  
蔵 本



秋の夜はあを夜よひくく山にのをりきり振なき  
武蔵王子 原胤祿  
 新涼き月よあふく川流のかを岸の春のよき  
 小澤清喜  
 玉川の清はあふれよ鳴りつ津さるる月よあをを  
 波多野信達  
 素らふとかんは鳴あり久々の空よきある秋の夜風  
 加藤一周  
 ささるる月の光り玉川の里に申つたかよはあをを  
 水上征房  
 川流のそよよきとるさるるを秋のから月よあを  
 長井裁之  
 あけの月の光の清はあをを清れさるにかり鳴り  
 堀内庸言  
 けを鳴り井出のかけのあをを月よあをを  
 服部肇敏  
 秋末のとるんをさるる谷川の喜のさるるかよは鳴あり  
 森重都銓  
 秋は月よあををあをを鳴りきりあふれよ河は鳴り  
 光子

秋ふらふ山下あふくくあをを鳴りかよはの鳴りあ  
 操子  
 かよはあを井出の玉川あをを鳴りきりあふれよ河は鳴あり  
 栄子  
 わりきりあを井出の玉川あをを鳴りきりあふれよ河は鳴あり  
 福子  
 玉川の清はあふれよ鳴りつ津さるる月よあをを  
 民子  
 ささるる月の光り玉川の里に申つたかよはあをを  
 濱尾  
 素らふとかんは鳴あり久々の空よきある秋の夜風  
甲府 清子  
 ささるる月の光り玉川の里に申つたかよはあをを  
同 ささるる月の光り玉川の里に申つたかよはあをを  
 媛子  
 あをのあけの月よあをを谷川のあをを鳴りきりあふれよ河は鳴あり  
 媛女  
 玉川の清はあふれよ鳴りつ津さるる月よあをを  
 登勢女  
 かよはあを井出の玉川あをを鳴りきりあふれよ河は鳴あり  
 可南子



新とみく流る月玉川よかほり秋をふあへ  
 夕なほくそとる心川よあさふれあかほり解  
 妹のあのみをさる玉川の川よとるさるうら  
 角のあさるあをけて鳴る川よの秋をさるさる  
 手籠ゆるわうをよをれ玉川の岩屋くく鳴かほり  
 さる玉川のきよ流るさるあはほるさるさるあはほり  
 秋の夜の月の光も玉川のあられさるく河振鳴り  
 夕まくれをれをこえて務ゆるほそ谷門よ振あくあり  
 さる玉川の秋の川のあられかほりあはほりあはほり  
 布きく流るれをさるあはほりあはほり玉川の水

呂久子  
 大野 開  
 遠藤三基  
 鈴木安盛  
 釋 隆 識  
 龍 潭 和 尚  
 須天太保  
 守富朝臣女  
 光子  
 京都 土師光基  
 武藏府中 椋渡盛章



蝌蚪  
 俗云カヘルコ  
 又才玉お子

文廬  
 蟾蜍

俗云ベツカフ  
 ヒキ



いづれもてきまらぬ時考すこと後々時々あふかた川哉  
本居春庭  
そあともかくあはれはあはれ川あはれあはれなり秋の夕れ  
岡山正興

河蝦考をよみてかゝる成地名に

いまを—あうくも多たかきけさよい舞のさやぐあやあはれ  
殿村常久  
あはれもあはれも人よきせを秋のかた川のはせのあはれ  
三井高匡  
ふ川あはれやうもつたあはれもい小田あはれあはれいよあはれ  
小津久足  
あはれもあはれもあはれも秋とくはあはれもあはれもあはれ  
長谷川元貞  
ふ河のあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれ  
笠因英為  
水底あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれ  
笠因清雄  
かゝつあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれ  
久世庭氏

あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれ  
同本居氏妻 以幾子  
あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれ  
下總取手 澤 近 嶺  
あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれ  
常陸高波 鬼 澤 大 海  
あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれ  
相模戸塚 鈴 木 長 温  
あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれ  
武蔵保志谷 山 平 伴 鹿  
あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれ  
相模大槻 原 久 胤  
あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれ  
駿河嶋田 服 部 菅 雄  
あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれ  
甲斐上吉田 釋 春 登  
あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれ  
武蔵小野 内 藤 重 喬  
あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれ  
甲府 鮎 澤 世 美



秋まれのわらわりの秋のころさあまかろうあくききたるま  
 夕風のまじりさそへて玉川あまらあなを秋やまらへん  
 玉川のまじりあまらあなを秋やまらへん  
 旅風ふきり吹く秋の谷川の水ときよあくわらうこり那  
 秋のまじりあまらあなを秋のころさあまかろうあくききたるま  
 あなを秋のまじりあまらあなを秋のころさあまかろうあくききたるま  
 秋のまじりあまらあなを秋のころさあまかろうあくききたるま  
 秋のまじりあまらあなを秋のころさあまかろうあくききたるま  
 秋のまじりあまらあなを秋のころさあまかろうあくききたるま  
 秋のまじりあまらあなを秋のころさあまかろうあくききたるま

林 真 子  
 菌 田 道 別  
 梶 田 直 徳  
 谷 吉 迪  
 日 下 部 元 樹  
 宥 存 法 師  
 玉 石 玉 翁  
 四 方 田 真 種  
 普 化 僧 垣  
 佐 脇 治 謙

秋まれのわらわりの秋のころさあまかろうあくききたるま  
 夕風のまじりさそへて玉川あまらあなを秋やまらへん  
 玉川のまじりあまらあなを秋やまらへん  
 旅風ふきり吹く秋の谷川の水ときよあくわらうこり那  
 秋のまじりあまらあなを秋のころさあまかろうあくききたるま  
 あなを秋のまじりあまらあなを秋のころさあまかろうあくききたるま  
 秋のまじりあまらあなを秋のころさあまかろうあくききたるま  
 秋のまじりあまらあなを秋のころさあまかろうあくききたるま  
 秋のまじりあまらあなを秋のころさあまかろうあくききたるま  
 秋のまじりあまらあなを秋のころさあまかろうあくききたるま  
 秋のまじりあまらあなを秋のころさあまかろうあくききたるま

森 田 静 岳  
 森 忠 親  
 倉 田 至 誠  
 小 林 徳 方  
 根 来 紀 寛  
 堀 豊 香  
 根 本 貫 緒  
 齋 藤 義 彦  
 泉 文 雄  
 岡 村 一 之



夕風の神よね〜  
 報よひはあをれを〜  
 麓の川を〜  
 谷川の石の〜  
 山川の石の〜  
 秋のた〜  
 山川のき〜  
 小流波の〜  
 龍の川〜

同井關  
 法印幸塔  
 岡野磐根  
 同五里  
 瀧平佳雄  
 同宮部  
 法印長祐  
 同小川  
 拙文和尚  
 井阪貞行  
 同  
 矢萩長好  
 同小井戸  
 江橋盈永  
 同北条  
 市村恭圓  
 同下妻  
 福田吉重

その人の〜  
 山川のき〜  
 言のり〜  
 秋の〜  
 山川の石〜  
 山川の〜  
 山川の〜  
 山川の〜  
 山川の〜

武蔵良  
 順教法子  
 同  
 鈴木理盛  
 同正用  
 内藤恒徳  
 同永福寺  
 仙邦法師  
 同落合  
 昶永法師  
 下毛小殿  
 大川勝長  
 同  
 勝長母勝子  
 武蔵玉川布多  
 小林信継  
 同  
 萬子  
 同  
 岸満軌



玉川の町のまはれゆきまてかこ川なくある娘の申しし 同喜多見 慶元寺相阿  
 河唐ふあふあうけりさこ川よきかまのこまけぬん 同喜多見 藤本仰阿  
 字ゆりて葉林とつ玉河の河唐ふあぬぬかこ川 同喜多見 清水良信  
 系ふれまよまてり玉川の秋のむ川の幸ふるり 同 田中昌澄  
 かこ川あうけりさこ川よきかまのこ川 同佐須 温井義一  
 秋ふれまよまてり玉河の河唐ふあぬぬかこ川 同 来田重定  
 苗代の時ふまてり玉河の河唐ふあぬぬかこ川 同八王子 河口真管  
 玉河ふれまよまてり玉河の河唐ふあぬぬかこ川 同吉梅 根岸典則  
 玉河ふれまよまてり玉河の河唐ふあぬぬかこ川 同 吉祥院役峰翠  
 昔ふれまよまてり玉河の河唐ふあぬぬかこ川 同 並木梨高

秋ふれまよまてり玉河の河唐ふあぬぬかこ川 同 並木康清  
 河ふれまよまてり玉河の河唐ふあぬぬかこ川 同 鹽船清安  
 玉河ふれまよまてり玉河の河唐ふあぬぬかこ川 同 松木忠邦  
 玉河ふれまよまてり玉河の河唐ふあぬぬかこ川 同 法印日惠  
 玉河の河唐ふあぬぬかこ川 同 横川長秋  
 玉河の水唐ふあぬぬかこ川 同武藏中 大正寺顕惠  
 玉河の河唐ふあぬぬかこ川 同谷野 釋淨月  
 月きよれ秋の河唐ふあぬぬかこ川 同北小曾 野崎義也  
 玉河の河唐ふあぬぬかこ川 同玉川羽村 坂本千春  
 玉河の河唐ふあぬぬかこ川 同秩父 荒川親経



川ありあけに清き月をよむはねあけの秋なり 同二保尾 谷合吉孝  
 玉川のあまそとちて濁あきる急のわきを鳴かす 同 青木惟吉  
 玉川の流るるに梅さけは月夜をみよむ 同御嶽山 須崎象種  
 暗うはつ秋をちたりてさうくと聲のあやむ 同拂次 清水則定  
 さびき松志のいぬんを 同水川 河邊政義  
 月きよはねの秋をうらむは幸なる 同 小峰愛親  
 玉川の流るるに 同大日原 原嶋邦壽  
 秋のやへ 同赤土 山川信明  
 うらむあま 同細代 山本寛積  
 大井河の流をかき 信濃高遠 市村福實

いとばるあけま 武藏正沢 木崎典清  
 水わくきてあけ 同成木 清水恭隆  
 月をよむ風 同 沙門同契  
 あう 同飯農 大河原包章  
 秋 同所沢三上氏母 里え女  
 玉川や月 同赤尾 林信海  
 あ 同石井 井上英篤  
 玉川の流 同吹塚 田中正勝  
 外 常陸三重 家積  
 庭 同 関雅



時らうはあつて行のきき傳の秋まよりのと鳴かする家 同 義躬

玉川の水はさよとえし原のあはるさよつとる船あつなり 武藏八王子 神宮寺正敷

玉河のあつたさよとえし船あつなり 同 江添是定

秋さけのけしきとて風よゆつとるは舟あつなり 同 松本千歳

玉川のさよとえし船あつなり 同 松村保定

色けきとけしきとて風よゆつとるは舟あつなり 同 松本水哉

とてしやまきのよけあつなり 同 佐々木何庸

秋の夜も麻のさよとえし船あつなり 同 釋敬仙

玉川のけしきとて風よゆつとるは舟あつなり 武藏日野 日野義教

とてしやまきのよけあつなり 同 村正道

秋まよとわつとるさよとえし船あつなり 上毛新田 入間信篤

月けしきとて風よゆつとるは舟あつなり 同 前永昌寺不審

合勢のさよとえし船あつなり 下毛富田 三柴廣雄

船とて風よゆつとるは舟あつなり 同 小佐野豊

玉河のあつたさよとえし船あつなり 下毛都宮藩 萩原明翹

玉川のあつたさよとえし船あつなり 同 饗庭清起

とてしやまきのよけあつなり 同 里代子

玉川のあつたさよとえし船あつなり 同 猶子

とてしやまきのよけあつなり 同 寺田重華

玉川のあつたさよとえし船あつなり 同 宇津原隆治



夕は花をばかたのらんちやも川らん玉川のさ  
伊勢太 奥村貞卿  
 娘のあま月るきよー下野やまの川上わきはあけり  
奥會津藩 渡邊近直  
 まま寝さよれ月あまあこたて井まけ玉川わらなあり  
同 二本松藩 竹中致久  
 秋のあれ月るきよ玉川よさささのあまをささ  
同 中川勝宣  
 谷川のきよた秋をさささささのあまありさささ  
近江大津 僧 勇 定  
 娘のあま月るきよ玉川のあまあまあまあま  
哉前福井 僧 圓 海  
 あまあまあまあまあまあまあまあまあま  
下毛宇津宮 中里好篤  
 秋のあま月るきよ玉川よさささのあまあり  
同 村上祐常  
 玉川のあま月るきよ秋のあまあまあまあま  
同 福田成賀  
 玉川のあま月るきよあまあまあまあまあま  
同 坂井章

谷川のあま月るきよあまあまあまあまあま  
同 赤羽通継  
 秋のあま月るきよあまあまあまあまあま  
下毛鹿沼 村沼廣運  
 まま寝さよれ月あまあこたて井まけ玉川わらなあり  
同 嶋田良成  
 秋のあま月るきよ玉川よさささのあまあり  
同 細川正平  
 夕まあまあまのあまあまあまあまあま  
同 鈴木正雄  
 玉川よさささのあまあまあまあまあま  
同 豊岡平寛  
 玉川のあま月るきよあまあまあまあまあま  
石梨山 湯澤真直  
 あまあまあまあまあまあまあまあま  
下毛中里 無量寺玄海  
 秋のあま月るきよ玉川のあまあまあまあま  
同 法雲房禪海  
 玉川よさささのあまあまあまあまあま  
同 沙彌義彦



武蔵鷹野 嶋千丈

ちたさき

野口道俊

關山通真

本多忠雄

本多吉房

吉田寛澄

野中惟好

稻子

芳垣芳香

宮井清風

沙門堯範

山田元恭

佐野正賢

岡田保固

多加子

池田果

小林常郷

小坂守常

徳田木繩







秋きぬと風ききのつらさなるあきそは川のせせらぎあり

玉川の井堰と清流のよきまはるきくはらの春風をん

夕はく日せきや川原の秋きむきまよかしの秋きむきむ

きくはや月わたりのをきむきむきむきむきむきむきむ

秋風よ若波さるる谷川やいささるりくわさばなくなり

ゆき書よふかしのつらさなるあきそは川のせせらぎあり

玉川の里の秋きむきむきむきむきむきむきむきむ

くさあふんきむきむきむきむきむきむきむきむきむ

あ川やくさあふんきむきむきむきむきむきむきむきむ

秋のあきよきむきむきむきむきむきむきむきむきむ

同

同中津守

同

載後系奥川藩

武藏久本

水戸

武藏溝

相模小田原

天野宗光

小林重勝

小林信賢

阿部義謙

壽子

俊子

良子

春子

奈如子

要子

ねたまのあきふかしの玉川の川原のせせらぎあり

あきよきむきむきむきむきむきむきむきむきむ

秋風のたつこの川原のせせらぎあり

玉川のせせらぎあり

玉川は清きあふんきむきむきむきむきむきむきむ

秋のあきよきむきむきむきむきむきむきむきむ

玉川の清流のせせらぎあり

あきよきむきむきむきむきむきむきむきむきむ

玉川の川原のせせらぎあり

あきよきむきむきむきむきむきむきむきむきむ

武藏宮

載後鴨

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

野仲道

坪谷茂木

藤田桃里

金朝

中嶋白當貫一

壽子

小西正之

羽佐間資承

松崎利堅

平澤廣之







○  
 秋まぬと涼しとて河の清き流しは  
 國友 敏啓

秋まぬと涼しとて河の清き流しは  
 常陸府中 茂昌

秋まぬと涼しとて河の清き流しは  
 大和田真澄

秋まぬと涼しとて河の清き流しは  
 同馬場 原田繁樹

秋まぬと涼しとて河の清き流しは  
 共書と板よきんときん  
 富安幸磨

秋まぬと涼しとて河の清き流しは  
 けしひけし稲田ささ  
 孤圓齋一鏡

秋の河原とよきん

ささよきんおととて河の清き流しは  
 孤圓齋一鏡



黄桑魚  
キハタ

波羅蜜  
アサギ

赤蝦蟆  
アカカエル

蛙  
アマガエル

玉足半魔

蟾蜍  
ヒキカエル

雀  
アサギ



河蝦考戯咲歌

旅枕さとのきぬいぬるもあはれ蝦のこころごとく

五車亭龜山

ともすれえ雪やほく人水くすむ月のうつろの枝の河蝦を

能樂寺袖丸

常葉居の大人の河蝦考よ年頃のいづれもさるるて

よー地川に葉のうらもあへるもの名もあはれる河蝦鳴あり

下毛鹿沼

散木子安良

難魚ふ声をこころれぬ河蝦も真摯大人のかこきらちをよ  
あひて年久しくこころれぬ歌のおもむきのたしめてせよあれ  
ぬ日んの下ろこひさこそあやう先と思ひやられて

鳴る川を世むねく声たてく声きく日く人をまちらん

日光

鳳鳴閣思文

山阿よせめを蝦へる月のうつろの枝さつひてせよまなく

曲肱亭如々

月々々の清洲川よわく河蝦声かゆるぬあはさりなる

六花園行就

ゆづれのさ田乃川へる水時より歌よ河蝦あけり

酔亀亭廣丸

出来秋さるるつもてまぐや河蝦此歌を豊よまき

酔翁竹人

秋のよ乃此歌のつづつあはれ服乃た糸もこそあけ

酔星樓伊志女

秋風あはせらあはれ枝川の蝦乃あはりあはれあ

酔樂亭一徳

山吹あはりて蝦ハ秋のようあはれあはれあはれあ

酔藤亭房丸

秋川の蝦乃歌はれるぬり水乃あはれあはれあ

酔筆亭金持

輝されえ是もゆづ川の山川よ蝦のこころごとく

酔藏亭甲良

照度よまるとのハ桂川より射るる蝦あけり

酔猿亭道彦

秋よみ乃蝦ハ秋はさ田川にまのちつきてこそまけ

酔霞亭圭五

さ田川秋は蝦乃あはりあはれあはれあはれあ

酔本亭喜丸



河原考りたかたふらふ成り侍り

年々のあはれいとおもひしきありかたの川にすまはるるまを

武藏青梅  
春花亭清住

西川やまきる布れまじりく東河原行旅のしほひもろ

仙羅亭古道

足音のたつ川に声もつはあはれまきまねたふらふ

柳樹園芳文

河原もすは秋のしほりもやこころをわすれてかた川原

幸廼屋義道

玉川や布もすはあはれまきまねたふらふ

豊穀垣真壽

玉川はらうすはあはれしほりのほろやかた川原

千代廼屋綾富

ひさしとあはれまきまねたふらふ

御幸園東穂

玉川のほろはあはれまきまねたふらふ

梅園文松

あま川ははれまきまねたふらふ

朝寝房直畫

秋の河原もすはあはれまきまねたふらふ

都長井園真水

玉川の岸もすはあはれまきまねたふらふ

美井廼屋綾綱

玉川のあはれまきまねたふらふ

金嶺舎繁直

玉川のあはれまきまねたふらふ

長秋  
十一文 横川真鶴

照月を待つはあはれまきまねたふらふ

十一文 吉澤岩秀

水音もきよれたあはれまきまねたふらふ

秋廼屋足穂

あきまきいとあはれまきまねたふらふ

心情女

糸のこけふもきよれたあはれまきまねたふらふ

紀安女

いあはれまきまねたふらふ

鶴女鳥

あはれまきまねたふらふ

明廼屋石文



玉川のきよねあふれささるる秋のきよねをいふが  
ささるる秋のきよねあふれささるる秋のきよねをいふが  
旅風とて又晴きくくくくくくくくくくくくくくくく  
丹波と玉川のきよねをいふが  
貞とくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
古き路の玉川のきよねをいふが  
河蝦考をいふが  
水のきよねあふれささるる秋のきよねをいふが  
真楫大くよく楫とくくくくくくくくくくくくくくく  
玉川のきよねあふれささるる秋のきよねをいふが

双鳳亭春澄  
小峰八束穂女  
淡海迺衛門  
保壽軒寛命  
顔迺屋長秋  
志賀迺屋山蔭  
戲歌林綾繁  
久棟堂橋良  
斧 金 厚

秋とくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
湖布をささるる秋のきよねをいふが  
たふとくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
早船川とて又晴きくくくくくくくくくくくくくく  
とて又晴きくくくくくくくくくくくくくくくくく  
唐とて又晴きくくくくくくくくくくくくくくくく  
とて又晴きくくくくくくくくくくくくくくくくく  
玉川のきよねあふれささるる秋のきよねをいふが  
玉川のきよねあふれささるる秋のきよねをいふが  
玉川のきよねあふれささるる秋のきよねをいふが  
玉川のきよねあふれささるる秋のきよねをいふが

春樹園九圭  
浅香菴咲掛  
一圓亭元舎  
壽山人百俊  
秋好亭園女  
正木園元子  
壺妙樓歌掛  
松柏園重根  
小倉菴照掛  
松風廬真住



長々たる心と秋の心とあるての片若くは秋の心を

悠々館長人

ささゆきをよとつて鳴かす風をよとつて玉川の浪

翠葉園真虎

月をあかくはのちのちの文のねまは定まらぬ歌

武蔵房真盛

うねりのなき谷川へ嫁されい麻へとて又世をうらみ

下野菴宮住

河帳考をよとつてわははと河帳のなちめをよとつて

さう名の楫をうらむ玉川のわをけりてあなれ舟歌

鼓腹亭實

玉川よまをよとつて河帳秋の夜の月をよとつて

實妻 隆女

林半斯のわと川考をよとつて

はよとつては麻の服さあたり秋のわをのちをよとつて

常総菴有政

秋の秋の香のあつて玉川よまをよとつてみつけてわと川考あり

竜玉園掌

あつて思ふとあつて秋のわをけりて秋のわをのちの歌をよとつて

唐子卷子

玉川のわをよとつて秋の香の月のさやうにあつてわと川考

雀 春子

又よとつてあつてあつて秋のわをけりてわと川考

勸学亭怖倉

玉川よまをよとつて麻の舟のつてわと川考

延齡舎龜住

布ささくさあつてあつて玉川や秋のうらみのあつて

歌俵堂高積

伐士やよとつてあつて玉川のわをけりてわと川考

栄欄舎貞義

あつてあつてあつてあつて秋のわをけりてわと川考

十國舎

玉川のわをよとつてあつてあつてあつてあつてあつて

行道菴明木

山楯のわをよとつてあつてあつてあつてあつてあつて

便欄臺義法師

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

千丈亭元成



秋の夜の月よきゆひてあくかき津守のまぢる玉川の原 武藏玉川 池廻屋淺見

布ききとをよほきて玉川のかゝるくまふあゆまのよき 同 宇波空人

さしあきて清きあふれまの玉川よ晴やかき津守の細布 同府中 木園月守

かまはらうるを移よよき替てかき津守の玉川の里 武藏金沢 旭松堂浦路

秋の夜のさきき月よ晴かゝるくまふあゆまの玉川の里 相模三浦 便船樓春風

解の夜き細谷川のおれよりいとまろふれ晴かき津守 同藤沢 森節亭里人

玉川や秋のきあはれよかき津守の夜き津守の世 同勝原 成有亭一徳

あきくた月はいまの玉川よきききききききききき 同 千里亭文垣

初秋のわき津守の夜き津守の夜き津守の夜き津守 甲斐上吉田 富士原夏雪

松風のこゝろあきききききききききききききき 武藏大類 岸義孝

ゆほほ秋のかゝるの晴きききききききききき 甲府 六時園足雄

姫きぬと秋のうききききききききききききき 同 永樂亭久磨

枝あききききききききききききききききき 同 和居春海

川の原の川やききききききききききききき 同 行樂舎三春

月をのぞききききききききききききききき 甲斐市川 流霞亭真河

さけきききききききききききききききき 同 感歌堂常道

秋の若ききききききききききききききき 浪花 不通舎梅干丸

河船寄をよき

桂樹入野のこゝろと水よきききききききき 同 雲水樓雲水

のききききききききききききききききき 同 花月弄内子



秋の夜の月をささるる小川をわき流のほとりぬあり  
 水うきく月のわたつとせなる川秋をうきくの枝よほりぬ  
 山川の月をささるる梓さしてわくるわくるの夜のささるる  
 秋をぬき夕ささるる風をささるるあつた小川をわき流あつたり  
 秋風のささるる山川の秋のわき流の笛をうきぬり  
 頼をささるるお流る山川はけはれ秋のささるるくさくさ  
 秋さぬと風りり山川の川をぬきぬきぬき茶をささるる能き  
 山橋の葉をささるるぬきぬきの枝をささるるのあつたぬきぬき  
 歌をよむわき流る水は秋をささるる月をささるるの葉の下り  
 河原の枝をささるるのあつたぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

吾了軒菊成  
 鶴木園研安  
 常磐松久  
 荒樹軒史高  
 出雲八美雲  
 八葉亭高安  
 青山亭常吉  
 足曳山雄  
 芳入亭菊守  
 繁亭末長

九月にわさるの秋の月をささるるわき流る地下の枝をよほりぬ  
 秋の夜をささるる山川の夜をささるる風をささるるわき流る  
 くらり秋をささるる月をささるるの秋をささるる影をささるる  
 山川のささるる吐と暮川へうけり月をささるる影をささるる  
 本れ葉をささるる山川の夜をささるる人のささるる影をささるる  
 あつたぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき  
 あつたぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき  
 長きよねをささるるささるる水や谷原のうら川秋をささるるくさくさ  
 娘をささるる地をささるるはささるるささるるささるるささるる  
 秋言中くささるる月のささるるささるるささるるささるるささるる

猿遊閣仲貫  
 南盛子春岑  
 文清舎沖澄  
 風雅道義  
 洗硯亭墨水  
 福田舎秋子  
 菊花園菊花  
 新勇園春駒  
 龍鱗舎松蔭  
 蝶舞窓見揚



りもらきよのかまききと秋の川水はゆるぎなきをて振る  
秋ももよあたまをよわむを山川のたろけうけてあかき川を  
塘にを月よまらむく秋のあけきくまき川をかろくぬき  
水の面は彩うく月の聲あつとくぬけまきくのかき川を  
かかあけよ龍田の川はあたまありわてつ二丈をたせ  
秋風よあけろくま川のかき川のまきくきまきあけり  
まきせんはまきまきあたまあて秋のまきまきくき  
秋風の吹くるくまきをきくまきくまき井のかわりか  
まらるる海の風の胎もあるまきまきかきあき風  
枝川よのあけかき川のまきまきまきまきまきまきまき

長忍亭基頼  
桃花園近住  
篠田菴橋根  
靜遊居友頼  
馬唐洲山子  
和歌連成兼  
桃迺屋猿丸  
五玉亭其倫  
蟻菴仲任  
窓史丸

秋ももよあたまをよわむを山川のたろけうけてあかき川を  
塘にを月よまらむく秋のあけきくまき川をかろくぬき  
水の面は彩うく月の聲あつとくぬけまきくのかき川を  
かかあけよ龍田の川はあたまありわてつ二丈をたせ  
秋風よあけろくま川のかき川のまきくきまきあけり  
まきせんはまきまきあたまあて秋のまきまきくき  
秋風の吹くるくまきをきくまきくまき井のかわりか  
まらるる海の風の胎もあるまきまきかきあき風  
枝川よのあけかき川のまきまきまきまきまきまきまき

武藏越生 柏迺屋槻明  
無名氏  
上野 廣杖樓法師  
雲間井老客  
玉川樓鮎丸  
米花溪垣守  
松風廳長丸  
蘭菊園梅竹  
大木戸駒彦  
人勇成



秋風や山鹿馬の鈴鹿川ありたりたふり川かくわさ  
夕なれん振れ声もよふ川はもまきさあきり初風  
月影は見えを磨く玉川のたまたまつて振あけぬり  
ふろくと振あがり玉川は柱は柱なりあきり  
旅館の色づく秋の川よあはさしあきり川あきり  
照るる月れ桂の枝川よ雨ふ振らん  
玉川のありよむてよふあきり声も山こひ鳴かり川  
山川やあはれもあきり川あきり川あきり川  
天の川くれ振らんくあきり別れの雨や  
来る人もまれば秋の谷川よいとわきくと振あがり

五柳亭去舟  
中野菴床電  
洋々亭水元  
末廣假名女  
家西屋室包  
呼月樓三宜  
烟雨樓春根  
寄梅亭酒人  
發文堂成喜  
湖川樓堰

梅鹿の声さへをそきて山川よあきり書も振あけぬり  
落帖よさしをゆりて玉川よ声もまきり振あけぬり  
山川乃振の音やあきりことありてゆきり人さきり  
夕暮乃あきり声も谷川よあきりきり秋ハ悲しき  
涼風のたつこの川ハ年毎に秋はあきりかきり川あり  
秋川よ鳴や振乃奇袋さきりむんそきりてきり  
秋の夜れ月よきりひて山川乃きりきり声も振あけぬり  
歌をもむ振ハそきりあほそや一の文字もまきり谷川  
山川よ木の目の月の影さきりあきり河振の音もきりきり  
月よきのく形さきり木曾川よきりもあきり振あけぬり

湖友園阿津丸  
湖草園南都丸  
湖舟亭元女  
湖面堂成兼  
湖亀園甲良  
湖山亭石持  
湖雪樓比良住  
湖鐘菴音近  
湖月亭清影  
湖月園清秋



水まむむ秋の河振のこころをあらわしての世の今もきくや 湖濤園芦元

河振考の歌おぼくしてひるをよめることにて

もみちまのあきもこの山川は声のあやあ河振あくぬり 戯咲歌園湖濤園

山盛の花ちる水のあやあうりし書うかたもききこもあり 柳月窓細女

秋雨のうら河のへまゆのゆめはきこもきまで振鳴り 松風乙女

さひりまは振のまもこつかれてゆもあられあ并の春の夜 浅紫菴鳳管

森もあつてさる申の玉川は振ハ秋を告げて鳴らん 射術園張弓

玉川の水もんもまもこの月よこの声のさやらさ 秋栄菴万都子

玉川や草葉のあこのころこつて声まろこつて振鳴り 秋翠亭末廣

田の水の流るはまま一桂川月のうらこの声のさやらさ 秋鷹亭総丸

よき人のよきとこころめてよとよきを唱 振よ神のいの 紀伊 栖原雅楽雄

よき人のよきとこころめてよとよきを唱 振よ神のいの そのうわれ木 武藏川寄 無為菴末高

秋の振をよめる

かまききのきたの落の凡をてとやくは振の群をよめる 梅廼屋鶴子

あられきよ夜半の男房よまゆいものハ御あつらもこのは振あがり 白毛舎万守

秋の夜の月をめぐれたよ歌もむりあへよれそこのつね 室市亭舟成

陸奥と出羽の境ある温泉の山もわけてくるさた文字と

いふ川は振の鳴と何とこころをいふは麻とこころ其童して御枕

の石をいふこれと藤葉の色よて肢白く疲るる三ッおんを

かたのうととんたうの里のあつたの思をあらわしていふ 黄鳥亭大道

月まのあつたの思をあらわしていふのあつたの思をあらわしていふ 秋長堂物深



よき人よちめがしよんて言の葉をよんぬるよ  
こひのいのひささるれきつらうとれとのちりうこころを  
も耳ももくたひあん

水もまむ河原をおきていふへは田うへをれと其名よめらん

松園真楫


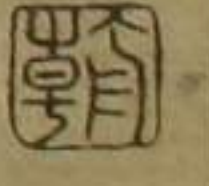
秋の夜の目のくろもあはく遠近の借君まの言の葉  
はらよ送るあへるはこころをまつあのおくも幸ひのれよ  
こひあん

秋の夜の月の葉のたふさして河原のくろやけきつらん

竹杖月良

いぬる文化えき秋むらしの園山より本はまき  
あつらふる時河原河とらふ糸を結るは雨を降降  
て夕つこのさゆれさのいせうさりま知ろまきつもの  
あまきつたはきそをまゐるるお折さるあまの釣人  
とおひよまのあはれまよりそかたさいこころもれそと  
向ふまかこのちるまをまよおのれいこころ名をこまき  
あつれと知りま今もちりまきつらうはてそまの屋  
合と淡しも強ちりるまきされまきつらうとらよま  
和名釣人もんををよまのまよお伊原まき  
かこのとよまを連歌所昌周の嘘の記をまかか  
雖もりともここの彼釣人といふく僻まきかこ二解あり



魚の難いのは釣で焼くも 五岳老人  

くひあめあめくうよけらぬ魚く  
 ねえり多魚くそいひるなり虫のいかに  
 きふくくはすそを知らぬはくはなるの  
 末ふりつて蚊もく形ら蟻の如き虫  
 くちひきくくくくをわくもくもくあ  
 るはくくはく常々魚のいひくもくく  
 玉たまはよりけりくくくくは志くくく  
 人くかくく魚あつとくひ虫くくくく  
 鳴くひくくくくくくあまは五岳画くくく  
 けはくくあまは又改八年の七月 廿九日の  
 ころり



あふみのあめれ者あま宮くあふいよりの後  
 かりくと秋の歌くよあん事く干くあふいよ  
 ぶのくくたえくくくあふいよりの後  
 松園けりくくくくくくくくくくく  
 書くも紙くあまはれて考くあふいよりの後  
 紫花よ杜のくく風くくくくくく河巻く  
 月くくくくくくくくくくくくくくく



あはれなるはらへてまゝのふりしむるは  
天をわたりてあはれなるはらへてまゝのふりしむるは  
あはれなるはらへてまゝのふりしむるは  
古今集の俳諧歌あはれなるはらへてまゝのふりしむるは  
あはれなるはらへてまゝのふりしむるは  
あはれなるはらへてまゝのふりしむるは  
あはれなるはらへてまゝのふりしむるは  
あはれなるはらへてまゝのふりしむるは

あはれなるはらへてまゝのふりしむるは  
あはれなるはらへてまゝのふりしむるは  
あはれなるはらへてまゝのふりしむるは  
あはれなるはらへてまゝのふりしむるは  
あはれなるはらへてまゝのふりしむるは  
あはれなるはらへてまゝのふりしむるは  
あはれなるはらへてまゝのふりしむるは  
あはれなるはらへてまゝのふりしむるは  
あはれなるはらへてまゝのふりしむるは  
あはれなるはらへてまゝのふりしむるは



あはれしき原かきしみの声はるるよ  
あはれしき原かきしみの声はるるよ

我歌園

湖野野

所記甲辰八月十七日松川屋ヨリ購来ス



